

卓越大学院プログラム 事後評価調書 プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名		北海道大学		採択年度	H30	整理番号	1801
1	プログラム名称	One Health フロンティア卓越大学院					
	英語名称	WISE Program for One Health Frontier Graduate School of Excellence					
	ホームページ (URL)	https://onehealth.vetmed.hokudai.ac.jp					
2	全体責任者 (学長)	ふりがな 氏名 (職名)	<small>※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるもの場合は基幹大学）の学長名に下線を引いてください。</small> ほうきん きよひろ 寶金 清博 (北海道大学 総長)				
3	プログラム責任者	ふりがな 氏名 (職名)	やまもと ふみひこ 山本 文彦 (北海道大学 理事・副学長)				
4	プログラムコーディネーター	ふりがな 氏名 (職名)	ほりうち もとひろ 堀内 基広 (北海道大学大学院獣医学研究院・国際感染症学院長・教授)				
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域				
		関連する領域 (1)【任意】	④世界の学術の多様性を確保するという観点から我が国の貢献が期待される領域				
		関連する領域 (2)【任意】					
		関連する領域 (3)【任意】					
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	F				
		最も関連の深い区分 (中区分)	42	獣医学、畜産学およびその関連分野			
		最も関連の深い区分 (小区分)	42020	獣医学関連			
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	I				
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	58	社会医学、看護学およびその関連分野			
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	58020	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含む			
7	授与する博士学位分野・名称	博士 (感染症学)、博士 (獣医学) 付記する名称：One Healthフロンティア卓越大学院					
8	学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	北海道大学大学院獣医学院獣医学専攻、 <u>北海道大学大学院国際感染症学院感染症学専攻</u>					
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 <small>※ 該当する場合には○を記入</small>			10	本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 <small>※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。</small>		
連合大学院		共同教育課程		20			
11 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)							
帯広畜産大学 (原虫病研究センター)、酪農学園大学、塩野義製薬株式会社、扶桑薬品工業株式会社、世界保健機関、国際獣疫事務局、国際協力機構							

[公表]

14 プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	コアト(割合)
1	(プログラム責任者) 山本 文彦	ヤマモト フミヒコ		北海道大学・理事・副学長	文学博士	西洋学史	本学における卓越大学院プログラムの実施責任者	1
2	(プログラムコーディネーター) 堀内 基広	ホリウチ モトヒロ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・教授・国際感染症学院長・One Health リサーチセンター長	獣医学博士	病原微生物学	プログラムの統括、医学・獣医学の連携推進、動物疾病診断・疾病制御研究センターの運営	2
3	石塚 真由美	イヅウカ マユミ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・教授・獣医学院長	獣医学博士	毒性学	学生の海外活動支援、ケミカルハザード対策専門家養成に関する大学院教育	1
4	大橋 和彦	オホハシ カズヒコ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・特任教授	Ph. D.	感染症学	大学院教務関連事項の取り纏め、感染症制御に関する大学院教育	2
5	乙黒 兼一	オツクロ ケンイチ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・教授	博士(獣医学)	獣医薬理学	ケミカルハザード対策専門家養成に関する大学院教育、大学院教務関連事項の取り纏め	2
6	迫田 義博	サコダ ヨシヒロ		北海道大学・大学院獣医学研究院・副研究院長・獣医学部門・教授	博士(獣医学)	ウイルス学	感染症制御に関する大学院教育、診断治療薬の開発研究の推進、動物疾病診断	0.5
7	岡松 優子	オカマツ ユウコ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・教授	獣医学博士	生化学	動物科学・生命科学に関する大学院教育、大学院生主体的活動の支援、プログラムの広報活動	2
8	荻和 宏明	オギワ ヒロアキ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・教授	博士(獣医学)	公衆衛生学	感染症制御に関する大学院教育、キャリアパス支援、QA活動	1
9	木村 享史	キムラ タカシ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・教授	博士(医学)	獣医病理学	医学・獣医学の連携推進、動物疾病診断・疾病制御研究センターにおける診断業務体制の構築	1
10	今内 覚	イマナイ サトル		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・教授	獣医学博士	感染免疫学	診断治療薬の開発研究の推進、動物疾病診断・疾病制御研究センターにおける診断業務体制の構築	2
11	坪田 敏男	ツボタ トシオ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・教授	獣医学博士	野生動物学	環境保全・環境科学に関する大学院教育、国際連携・国際協力活動の実践および教育支援	2
12	滝口 満喜	タキグチ ミツヨシ		北海道大学・大学院獣医学研究院・研究院長・獣医学部門・教授	獣医学博士	獣医内科学	動物疾病の診断・治療に関する大学院教育、医学・獣医学の連携推進	1
13	山崎 淳平	ヤマザキ ジュンペイ		北海道大学・大学院獣医学研究院・附属動物病院・准教授	獣医学博士	分子生物学	比較医学および汎動物学の推進、医学・獣医学の連携推進	1
14	Henshaw Michael	ヘンシャ マイケル		北海道大学・大学院獣医学研究院・国際連携推進室・講師	Bachelor Arts	英語教育法	英語教育、Transferable skill養成、留学生支援	3
15	小松 勇介	コマツ ユウスケ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・特任助教	理学博士	獣医衛生学	プログラムの運営管理、文理融合の推進、比較医学および汎動物学の推進	5
16	磯田 典和	イソダ ノリカズ		北海道大学・大学院獣医学研究院・獣医学部門・准教授	博士(獣医学)	リスク評価学	リスク分析に関する大学院教育、国際機関との連携推進、国際連携・国際協力活動の実践	2
17	大森 亮介	オモリ リョウスケ		北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・バイオインフォマティクス部門・准教授	理学博士	感染症数理疫学	感染症数理疫学に関する大学院教育、大学院生主体的活動の支援	2
18	澤 洋文	サワ ヒロフミ		北海道大学・創成研究機構ワクチン研究開発拠点・拠点長・教授	医学博士	ウイルス学	医学・獣医学の連携推進、キャリアパス支援、産学連携教育の推進	1
19	新開 大史	シンカイ マサシ		北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・生物製剤研究開発部門・准教授	医学博士	免疫学	感染症と免疫学に関する大学院教育、予防・治療薬の開発研究の推進	2
20	鈴木 定彦	スズキ サスヒコ		北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・バイオリソース部門・教授	医学博士	細菌学	国際機関との連携推進、動物疾病診断・疾病制御研究センターの運営、産学連携教育の推進	2

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	1701号(割合)	
21	高田 礼人	カカダ アヤト	北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・所長・国際疫学部門・教授	博士(獣医学)	ウイルス学	感染症制御に関する大学院教育、人獣共通感染症対策専門家養成、学生の海外活動支援	0.5	
22	東 秀明	ヒガシ ヒデアキ	北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・感染・免疫部門・教授	博士(薬学)	細菌感染学	感染症制御に関する大学院教育、診断治療薬の開発研究の推進、学生の海外活動支援	1	
23	山岸 潤也	ヤマギシ ジュンヤ	北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・国際協力・教育部門・教授	博士(農学)	原虫ゲノム学	バイオインフォマティクスに関する大学院教育、大学院生主体的活動の支援	2	
24	荒木 敦子	アラキ アツコ	北海道大学・大学院保健科学研究院・教授	博士(医学)	環境疫学	リスク分析・リスク評価に関する大学院教育、国際機関との連携推進	2	
25	福永 久典	フクナガ ヒサノリ	北海道大学・大学院保健科学研究院・准教授	Ph. D.	環境衛生学	リスク分析・リスク評価に関する大学院教育、国際協力に係るニューズアセスメントと実践	0.5	
26	小笠原 克彦	オガサワラ カツヒコ	北海道大学・大学院保健科学研究院・保健科学部門・教授	博士(医学)	医療情報学	マネジメントに関する大学院教育、国際機関との連携推進	1	
27	佐藤 三穂	サトウ ミホ	北海道大学・大学院保健科学研究院・保健科学部門・准教授	保健学博士	慢性病看護学	健康行動・健康教育に関する大学院教育、学生の国際的な活動に関する支援	1	
28	吉松 組子	ヨシマツ クミコ	北海道大学・遺伝子病制御研究所・附属動物実験施設・准教授	博士(獣医学)	病原微生物学	学生の海外活動支援、感染症制御に関する大学院教育、医学・獣医学の連携推進	1	
29	村上 正晃	ムラカミ マサアキ	北海道大学・遺伝子病制御研究所・所長・病因研究部門・教授	博士(医学)	免疫学	免疫応答・炎症制御に関する大学院教育、医学・獣医学の連携推進、産学連携の推進	0.5	
30	網塚 憲生	アミヅカ ノリオ	北海道大学・大学院歯学研究院・副研究院長・口腔医学部門・教授	歯学博士	細胞生物学	医学・獣医学の連携推進、学生の海外活動支援	1	
31	前仲 勝実	マエナカ カツミ	北海道大学・大学院薬学研究院・創薬科学部門・教授	博士(工学)	構造生物学	構造生物学・創薬科学に関する大学院教育、国際連携活動の実践、学生の海外活動支援	1	
32	石黒 信久	イシクロ ノブヒサ	北海道大学・北海道大学病院・感染制御部・部長・准教授	博士(医学)	臨床感染症学	感染症に関する大学院教育、医学・獣医学の連携推進、産学連携教育の推進	1	
33	荒戸 照世	アラト テルヨ	北海道大学・北海道大学病院・臨床研究開発センター・教授	博士(医学)	レギュラトリーサイエンス	診断治療薬の開発研究の推進、医学・獣医学の連携推進、官学連携教育の推進	0.5	
34	神谷 裕一	カニヤ ユウイチ	北海道大学・大学院地球環境科学研究院・物質機能科学部門・教授	博士(工学)	環境触媒化学	環境保全・環境科学に関する大学院教育、大学院生のキャリアパス支援、産学連携教育の推進	0.5	
35	豊田 和弘	トヨタ カズヒロ	北海道大学・大学院地球環境科学研究院・統合環境科学部門・准教授	博士(理学)	無機地球環境化学	環境保全・環境科学に関する大学院教育、フィールド調査の実践教育	0.5	
36	Carr Michael	カー マイケル	北海道大学・客員准教授	Ph. D.	ウイルス学	英語教育を含む大学院生の研究支援、海外機関との連携推進	1	
37	菅沼 啓輔	スガノマ ケイスケ	帯広畜産大学・グローバルアグロメディシン研究センター・獣医学研究部門・准教授	博士(獣医学)	獣医寄生虫病学	感染症制御に関する大学院教育、国際機関との連携推進、学生の海外活動支援	1	
38	西川 義文	ニシカワ ヨシフミ	帯広畜産大学・原虫病研究センター・感染免疫研究部門・教授	博士(農学)	感染免疫学	感染症制御に関する大学院教育、診断治療薬の開発研究の推進	1	
39	横山 直明	ヨコヤマ ナオキ	帯広畜産大学・原虫病研究センター・診断治療研究部門・教授	博士(獣医学)	獣医原虫病学	感染症制御に関する大学院教育、診断治療薬の開発研究の推進、フィールド調査の実践教育	1	
40	岩野 英知	イワノ ヒデトモ	酪農学園大学・学長・獣医学部・獣医学類・教授	獣医学博士	生化学	環境保全・環境科学に関する大学院教育、医学・獣医学の連携推進	2	

[公表]

14 プログラム担当者一覧（続き）							
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
41	萩原 克郎	ハギハラ カツロウ	酪農学園大学・獣医学群・獣医学類・教授	獣医学博士	感染症学	感染症制御に関する大学院教育、学生の海外活動支援	1
42	蒔田 浩平	マキタ コウヘイ	酪農学園大学・獣医学群・獣医学類・教授	獣医学博士	疫学	リスク分析・リスク評価に関する大学院教育、国際協力に係るニーズアセスメントと国際協力の実践	1
43	佐藤 彰彦	サトウ アキヒコ	塩野義製薬(株)・創薬疾患研究所・主席研究員 北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・客員教授	獣医学博士	ウイルス学	医学・獣医学の連携推進、大学院生のキャリアパス支援、産学連携教育の推進	1
44	平 知子	タaira トモコ	独立行政法人国際協力機構・農村開発部第一課・課長	理学修士	国際協力	国際機関との連携推進、国際連携・国際協力活動の実践および教育支援	0.5
45	湊 夕起	ミナト ユキ	世界保健機関本部・食品安全・人獣共通感染症部・プロジェクトオフィサー	公衆衛生修士	薬剤耐性菌対策	国際機関に関する実践教育、インターンシップ生受け入れと指導	0.5
46	釘田 博文	クギタ ヒロフミ	国際獣疫事務局・アジア太平洋地域事務所・代表	農学士	動物衛生対策	国際機関に関する実践教育、インターンシップ生受け入れと指導	0.5
47	園下 将大	ソノシタ マサヒロ	北海道大学・遺伝子病制御研究所・がん制御学分野・教授	医学博士	実験腫瘍学	比較生物学、腫瘍学、および免疫学に関する大学院教育、医学・獣医学の連携推進	0.5
48	Shane Peter	シェーン ピーター	北海道大学病院・国際医療部・准教授	M. D.	国際医療	比較医学および汎動物学の推進、医学・獣医学の連携推進、国際連携活動の推進	0.5
49	直 亨則	ナオ ナカノリ	北海道大学・One Healthリサーチセンター・特任講師	博士(獣医学)	ウイルス学	医学・獣医学の連携推進、ワンヘルスリサーチセンターにおける診断プラットフォームの構築	2
50	野村 直樹	ノムラ ナoki	北海道大学・人獣共通感染症国際共同研究所・特任助教	博士(獣医学)	ウイルス学	予防薬開発研究の推進、外国人留学生の活動支援	1
51	池中 良徳	イケナカ ヨシノリ	北海道大学・One Healthリサーチセンター・教授	博士(獣医学)	毒性学	ワンヘルスリサーチセンターにおける診断プラットフォームの構築	1
52	Rahel Mesfin Ketema	ラヘル メスフィス ケテマ	北海道大学・大学院保健科学研究院・健康イノベーションセンター・特任助教	博士(保健科学)	保健科学	環境と健康に関する大学院教育、国際機関との連携推進	3

成果の概要【2ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項**1. 学内共同施設“One Health リサーチセンター”の組織化**

補助期間終了後、本プログラムで構築した大学院教育プログラムおよび研究の継続性を担保する組織として、学内関係者と綿密に協議しつつ“One Health リサーチセンター（OHRC）”の設置を段階的かつ戦略的に進めてきた。OHRCは、多様な人材が、組織・研究室の壁を越えて、One Healthに関する学際的かつ実践的な教育研究のために集うプラットフォームとしての機能が期待される組織である。平成30年度末に、獣医学研究院に、前身となるトランスレーショナルリサーチ推進室を設置し、令和3年3月に、学内共同プロジェクト拠点（時限付きのプログラム）として“OHRC”が認定された。その後も、**全学的な支援を受け、予定より1年半早く、令和5年10月に、学内共同施設“OHRC”を設置した。**OHRCは、継続性のある学内組織として、感染症、保全医学、汎動物学、およびヒトと動物の絆、の4領域を教育研究の柱に据え、本プログラムで推進してきた、特殊検査・診断の提供、感染症、化学物質応答、および動物疾病に関する統合試料バンク・データベースの構築を進める。補助期間終了後も、本プログラムで構築した大学院・大学間共通特別教育プログラムである“**One Health Ally Course**”の実施を担当し、本プログラム実施の中心部局であった、獣医学院、国際感染症学院、獣医学研究院、および人獣共通感染症国際共同研究所とともに、大学院カリキュラムの実施を担当する。予定より1年半早く設置できたことで、補助期間終了後への準備期間が十分にとれ、シームレスな移行が可能となった。

② 計画通り進んでいる事項**1. 博士学位プログラム**

卓越大学院学位プログラム（4年博士課程）は、**1. スクーリングモジュール**（領域横断的な視点と専門的な学術基盤を形成するための獣医学院/国際感染症学院の大学院カリキュラム）、**2. リサーチモジュール**（専門性と科学的探究心を確立するための試験研究）、**3. インデペンデンスモジュール**（学生の責任感、企画運営力等の養成を目的とする学生主体の活動）、**4. One Health モジュール**（One Healthの包括的な理解の醸成と経験を積むための、本プログラムの特徴となるモジュール）、の4モジュールから構成されており、**当初計画通り、学位プログラムを着実に実施**してきた。

2. 優秀な学生、国際色豊かな学生集団を構築するための多様な入学者選抜方法

大学院入学者選抜は、一般入試に加え、1) 北大獣医学部卒業生以外の日本人を対象とする**日本人（自学部外）特別選抜**、2) 獣医臨床分野に特化した**臨床重点トラック選抜**、3) 修学意欲の高い留学生を独自の基準で選抜する**外国人特別選抜**、4) 感染症対応グローバル人材の育成を目的とする**JICA感染症プログラム**、5) 文部科学省の**国費外国人留学生の優先配置を伴う特別プログラム（PGP）**（平成18年度から途切れることなく5期連続で採択）など、**多様な入学者選抜方法を申請時計画通りに実施**し、国内外から幅広くモチベーションの高い学生を獲得している。**平成31年度から令和6年度の本プログラム参加者は平均で24.5名**であり、当初計画の年間定員20名を上回っている。

3. 学生が学修研究に専念するための経済支援および研究費支援

平成31年4月に参加の第1期生から、給付型の教育研究支援経費I種（月額14.5万円）あるいは教育研究支援経費II種（月額12万円）を支給してきた。令和2年度からはI,II種ともに月額15万円を支給してきた。国費留学生、JICA支援の留学生を含め、**大学院生全員が、国費留学生の奨学金以上の経済支援**を受けてきた。また、**JSPSの特別研究員への申請を積極的に支援**し、令和2年度から令和6年度まで、有資格者74名中30名が特別研究員に採択された（**採択率40.5%**、全国平均：令和5年度で17.3%）。大学院生の独創的な研究計画の支援、競争的資金の意義と公的資金を使う者としての責務の理解醸成を目的として、**当初計画通り、卓越大学院科学研究費制度を実施**してきた。令和元年度から令和5年度まで、採択率75-80%程度で、毎年19-28件を採択し、300-500千円を配分してきた。

4. One Health Ally Course の開設と実施

学位プログラムの特色の一つである One Health モジュールを、文系理系問わず、学内他学院、ならびに連携機関の帯広畜産大学、酪農学園大学の大学院生が履修可能な、**大学院・大学間共通特別教育プログラム“One Health Ally Course（OHAC）”**として令和元年10月に開始した。令和3年度に、より多くの学生が参加できるよう修士課程学生も対象とし、大学院共通授業科目として単位修得が可

能な制度に変更した。これまで、獣医学院、国際感染症学院、**歯学院、保健科学院、医学院、情報科学院、工学院、国際食資源学院、先端生命科学学院、文学院、経済学院**の学内計 11 学院、**帯広大と酪農大から参加**があり、文理横断的かつ大学間共通プログラムとしての実質化が進んでいる。

5. 学生の海外派遣支援

COVID-19 のパンデミックにより、学生の海外派遣の実施を中止せざるを得ない期間があったが、令和 4 年 6 月から、インターンシップ、調査研究、国際学会発表等での学生の海外派遣を再開した。再開するにあたり、ワクチン接種支援および海外旅行保険を見直し、保険会社と協議のうえ、独自の保険パッケージを構築した。令和 4 年度は 54 名、令和 5 年度は 59 名を海外に派遣した。

6. 国際機関との連携

本プログラムでは、**世界保健機関（WHO）、国際獣疫事務局（WOAH）、国際協力機構（JICA）**の専門家がプログラム担当者として参加しており、これら国際機関と密接に連携してきた。大学院講義の提供、**学生のインターンシップあるいは One Health モジュール（OHAC と同じ内容なので以下「OHAC」と表記）での海外活動の現場**として実質的な連携体制を継続してきた。ザンビア、モンゴルで実施している**地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム**、モンゴルで実施している**JICA 技術協力プロジェクト**などの**海外プロジェクトサイトは、活動拠点として強固な連携体制を構築**してきた。また、北海道大学、連携機関の帯広大と酪農大に設置されている、**WHO（北大：環境科学）、および WOAH のコラボレーティングセンター（帯広大：原虫病、酪農大：食の安全）、リファレンスラボトリー（北大：鳥インフルエンザ）**も OHAC の教育現場として活用してきた。申請時計画通り、感染症、環境科学、および、食の安全、の One Health で重要な領域で、国際機関と連携した教育を実施している。

7. 民間機関との連携

プログラム開始時点で、塩野義製薬、扶桑薬品工業が出資する 2 つの産業創出部門が設置され、両部門から、本プログラムに担当者が参加してきた。前者は COVID-19 治療薬等の抗ウイルス薬開発研究を精力的に進め、さらにワクチン開発の国家戦略もあり、令和 4 年 10 月に、北海道大学創成研究機構ワクチン研究開発拠点の設置に至った。後者は動物用免疫チェックポイント阻害生物製剤の開発を進め、上市を目指して臨床研究を推進しており、国際的にも非常に注目された取り組みとなっている。

8. メンター制度

中間評価時は、メンター制度は改善が必要な事項として記載したが、令和 3 年度に**若手教員を中心とするメンター運営委員会を組織**して制度の見直しを図り、**令和 4 年度入学者から、メンター登録教員数 49 名、学生メンター登録数 16 名で、修学メンター制度として再開**した。再開後は順調にメンター制度を運用している。

③ 改善が必要な事項

1. Co-supervisor 制度

複数指導体制のリサーチアドバイザー制度の発展型である、Co-supervisor 制度を令和 3 年度入学者から開始した。令和 5 年度の時点で、対象学生 77 名中 18 名（23%）が本制度を利用しているが、目標値である 30%には達していない。要因の一つは co-supervisor を担当する教員をプログラム担当者に限っていることである。現在、大学院教育推進機構が本制度の全学的導入を検討しており、これが進むと、多くの領域の教員が co-supervisor を担当できることになり、実質化が進むと思われる。

④ プログラムとしての今後の見通し

学内共同施設 OHRC が設置されたことで、**補助期間終了後の本プログラム継続実施の受け皿が明確**となり、シームレスに本プログラムの継続が可能となった。補助期間終了後の運営財源は、**OHRC の財源の一部、本学の大学院改革を担い、その予算を一括して配分を受ける大学院教育推進機構の大学ビジョン推進経費**を優先的に充当するほか、学生の海外渡航など学生の主体的な研究や活動を更に手厚く支援するため、本学の創基 150 周年事業における人材育成事業（イノベーション・フロントランナー事業）の基金を活用することなど、**全学的な協議が具体的に進んでいる**。

本プログラムの運営事務を担当してきた、国際連携推進室卓越大学院プログラム担当の役割は、補助期間終了後は OHRC の卓越大学院プログラム担当（仮称）が引き継ぎ、これまで通りプログラムの運営を支援するとともに、**修了生の国際ネットワークの構築と活用**のために、ニュースレターの配信や修了生の近況報告等**双方向のコミュニケーション**を取り、**動向調査を組織的かつ継続的に実施**する。また、大学院教育推進機構や学務部において大学院改革を担ってきた部署も資金計画に沿った事業運営や大学院改革に係る取り組みの全学波及など、これまで通りプログラムの運営を支援する。